

平成25年度第5回経営協議会 議事要旨

日時 平成25年12月16日(月) 14時00分～15時5分
場所 事務棟第二会議室
出席者 山本学長, 和田理事, 大矢理事, 奥田副学長, 江口委員,
鎌田委員, 齊藤委員, 舟本委員
欠席者 齊田委員, 榊原委員
陪席者 海老名理事, 石橋監事, 末永監事

議事に先立ち、前回(10月28日)開催の平成25年度第4回経営協議会の議事要旨の確認が行われた。

審議事項

1. 職員給与規程の一部改正(案)について

山本学長から、職員給与規程の一部改正(案)について、審議資料1に基づき、提案があった。詳細については、審議資料1に基づき、総務課長から説明が行われた。続いて、審議が行われ、原案どおり承認された。承認後、山本学長から、本件については、本日開催の役員会に附議することとする旨説明があった。

報告事項

1. 国立大学法人小樽商科大学名誉校友の称号授与に関する規程等の制定について

山本学長から、「国立大学法人小樽商科大学名誉校友の称号授与に関する規程」とそれに関連する「名誉校友等の称号授与の基準に関する申合せ」の制定について報告があった。詳細については、報告資料1に基づき、総務課長から説明が行われた。

2. 国立大学法人小樽商科大学感謝状の贈呈に関する規程等の制定について

山本学長から、「国立大学法人小樽商科大学感謝状の贈呈に関する規程」とそれに関連する「感謝状の贈呈の事由に関する申合せ」の制定について、報告があった。詳細については、報告資料2に基づき、総務課長から説明が行われた。

なお、報告事項1及び2に関連して意見交換等が行われた。

【意見交換等の主な内容】

- 称号授与と感謝状贈呈の基準となる寄附金額は、1回の寄附行為のものか、累積の金額でも認められるのか。
- 1回分の金額である。

3. 平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果について

山本学長から、平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果について、報告があった。詳細については、報告資料3に基づき、奥田副学長から説明が行われた。

4. 「国立大学改革プラン」について

山本学長から、11月26日に文部科学省が発表した「国立大学改革プラン」の概要について、報告資料4に基づき、報告があった。

なお、本件に関連して、意見交換等が行われた。

【意見交換等の主な内容】

●このプランでは、大学の改革を社会の要請に応えるものとするよう掲げているが、大学の人材育成や教育は長いスパンで考えることとなるだろう。社会の要請も強くなる中、本学としてのプランに加速度をつけるために、社会との関係、特にビジネス界との関係をもっと強くはできないか。

大学の知をビジネス界に提供し、企業等の実務のレベルの話や悩みを大学が受け止め、就職等での実業界との友好を強くするかたちは何か考えられないか。

その時その時の考えでやっていくと、一貫性がなくなる。これからの日本の問題、少子高齢化や国際化に対応した人材育成を考えたときに、もっと本学として学長のリーダーシップでビジネス界との関係を深めることはできないか。

○産業界との関係を築いていくことは、推進していくべきであると考えている。

現在は、エバーグリーン講座や札幌信用金庫の寄附事業等ビジネス界との取組があるが、一番大きい役割を果たしているのはビジネススクールだろう。また、グローバルマネジメントコースも産業界のニーズを反映させる取組である。

本学のミッションは、北海道という地に立ち、北海道経済の活性化に結びつく人材を育成する事であると考えている。

●地域からグローバルに羽ばたく人材は確かに育成できるだろう。

しかし、今掲げているこのようなプランだけでうまくいくのか。受け入れ側の企業やビジネス界も変えて行くことが北海道全体にとって重要である。北海道や小樽には豊かな資源がありながら、なかなか生かされていない等の問題もある。

○グローバル人材育成では、北海道を世界と繋げる「北海道商社マン」の育成を掲げている。北海道の価値をよく知り、ビジネス界で活躍できる人材育成を行っていく。

●ビジネススクールも10周年を迎え、これから先もより充実させていかななくてはならない。

○そのとおりである。本学のビジネススクールは地方のビジネススクールとして成功している例だと考えている。

○本学はリージョナルに地域社会へ還元する大学、教育・人材育成に力を入れる大学を目指していく。

文部科学省の示す「機能強化」を果たすため、改革加速期間に本学も目に見えるかたちで改革を推進し、成功させていくことが、第3期中期目標期間に向けて大きな意味を持つだろう。

○運営費交付金は年々減額され、本学の財政状況は、厳しいものがあるが、プロジェクト経費を獲得してなんとかしのいでいる状況である。国としてなくてはならない大学を目指していく。

●留学生の卒業後は、日本で就職しているのか。就職支援は行っているのか。

○留学生への就職支援は行っている。最近では企業のグローバル化で留学生の需要が高くなっている。

5. 次期学長予定者の決定について

山本学長より、次期学長予定者として、現理事（総務・財務担当副学長兼務）の和田建夫氏が選出された旨、報告があった。

6. 最近のトピックスについて

山本学長から、本学の最近の動向について、報告資料6に基づき、報告があった。

7. 次回に会議について

山本学長から、次回の経営協議会については、1月27日（月）14時から開催する予定である旨、発言があった。なお、緊急の案件が生じた場合には、急遽、会議を招集させていただくことも想定されるので、その場合には、会議の開催日程を調整させていただきたい旨、併せて発言があった。

以 上